

静岡大学のクラウド情報基盤とマネジメントシステム

発表者 長谷川孝博（静岡大学情報基盤センター）

2013年11月

静岡大学では2010年の全学情報基盤整備におけるクラウド全面適用の方針のもとで、クラウド情報基盤を確立した（図1）。2つの主要キャンパスの間にある商用データセンター内のPRCC（PRivate Cloud Center）に、キャンパス内にて運用されていた主要サーバ群を含む基幹システムを移設した。2011年度末には学務情報システムを含む事務系の主要サーバ群の移設を完了した。一方、学内の多数の教員によって運営されていた教育・研究用サーバの受け皿として、静岡大学専用のシングルテナントで運用される仮想サーバ（VPS: Virtual Private Server）群の提供を開始した（PBCC: PuBlic Cloud Center）。現在、PBCCのVPS利用台数は約260台である（図中PBCC利用者台数推移）。クラウド情報基盤への移行によって、運用と経費面での軽減を図ることができた。たとえば、情報基盤センターの光熱費料金においては70%の削減が図られている。

静岡大学クラウド情報基盤の特長として、ISMS（ISO27001; 2003年11月認証取得）およびITSMS（ISO20000-1; 2012年10月認証取得）の国際規格準拠の統合マネジメントシステムを用いた運用体制がある。ISMSは情報セキュリティに係わるマネジメントシステムであり、初回認証取得以来、本学情報基盤の事業継続計画について真剣に取り組む機会を与えてきた。クラウド情報基盤はその最も大きな出力の一つである。ITSMSは、センターがクラウド情報基盤で提供する28項目のITサービスに対する可用性を高めてきた。また、利用者代表者会議と締結したSLA（Service Level Agreement）の運用を通して、サービスの透明性と利用者満足度向上を図っている。これらのマネジメントシステムには、内部監査と外部審査機関によるチェック機能が働くため、学内外におけるクラウド推進の信頼性を厚くする効果がある。

本発表では、クラウド情報基盤の運用4年目の状況下における効果と課題について詳解する。

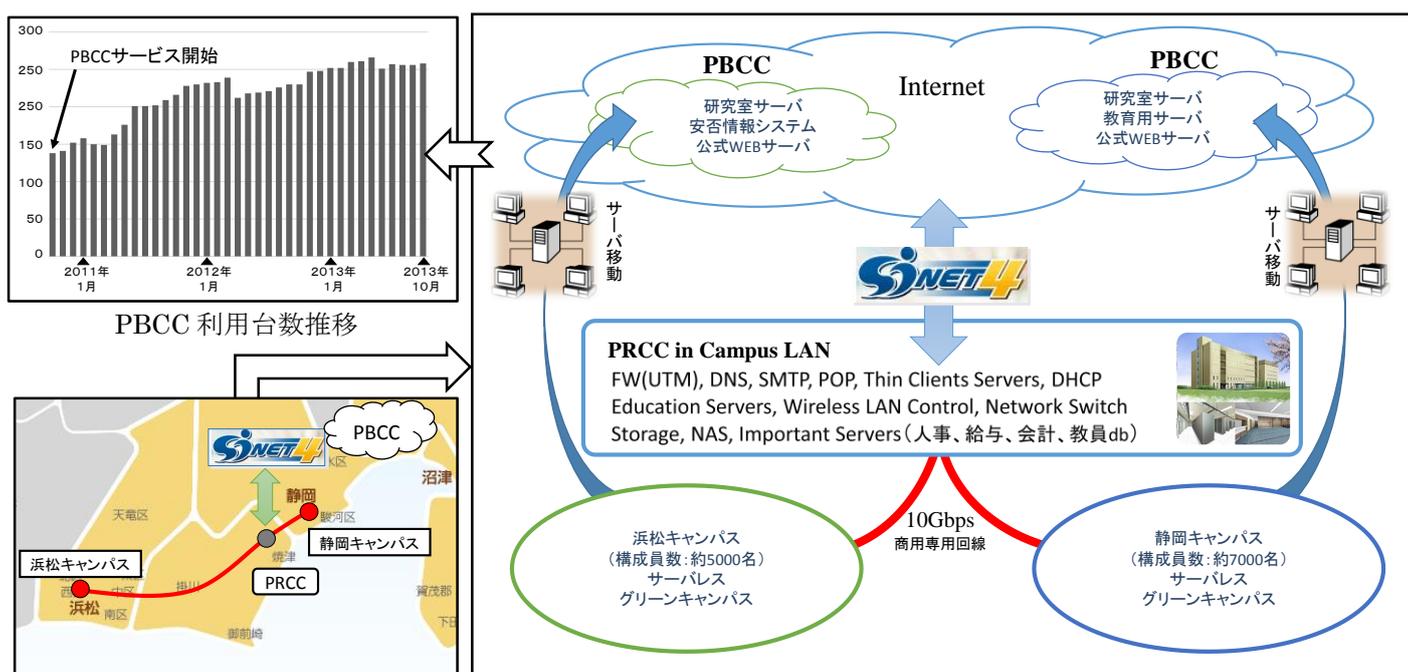


図1：静岡大学クラウド情報基盤 概要図